

特集

太郎さんの青春

小口太郎生誕120周年

琵琶湖周航の歌100周年

小口太郎顕彰碑等建立30周年

岡谷に生きるわたしたちはみな、湖うみの子なの
 かもしれません。諏訪湖はときに穏やかに、と
 きに荒々しく、いつもわたしたちのそばにあり
 ます。岡谷で生まれ育った小口太郎はその青春
 のさなか、湖を舞台にした歌をつくりました。

そしてその歌は、100年という時を刻んで
 います。しかし、小口太郎がどのような人だっ
 たのか、この歌がどのようにできたのか、わた
 したちはよく知らないのではないのでしょうか。

しばしの間、小口太郎が過ごした青春の日々、
 諏訪湖そして琵琶湖をわたる風に思いをはせて
 みませんか？

— 朝の諏訪湖で —
 岡谷南高校漕艇部のみなさん

小口太郎年譜

- ◆ 明治30（1897）年
小口太郎誕生
- ◆ 明治37（1904）年
湊尋常小学校に入学
- ◆ 明治43（1910）年
諏訪中学校に入学
- ◆ 大正4（1915）年
高島尋常小学校の代用教員を
務める
- ◆ 大正5（1916）年
高島尋常小学校を退職
- ◆ 京都の第三高等学校に入学
- ◆ 大正6（1917）年
琵琶湖周航の途中、「琵琶湖
周航の歌」発表
- ◆ 大正8（1919）年
東京帝国大学に入学
- ◆ 大正10（1921）年
「有線及び無線多重電信電話
法」の特許を各国内出願
- ◆ 大正11（1922）年
同大学航空研究所に嘱託とし
て入所
- ◆ 前記の特許が5か国（後に8か
国）で許可
- ◆ 大正12（1923）年
徴兵検査を受けて甲種合格
航空研究所を退職
- ◆ 大正13（1924）年
東京で入院中、逝去

琵琶湖周航の歌

作詞 小口 太郎
原曲 吉田 千秋

一 われは湖の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧や ささなみの
志賀の都よ いざこしらば

二 松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや

三 波のまにまに 漂えば
赤い泊火 なつかしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か

四 瑠璃の花園 珊瑚の宮
古い伝えの 竹生島
仏の御手に いだかれて
ねむれ乙女子 やすらけく

五 矢の根は深く 埋もれて
夏草しげき 堀のあと
古城にひとり 佇めば
比良も伊吹も 夢のごと

六 西国十番 長命寺
汚れの現世 遠く去りて
黄金の波に いざ漕がん
語れ我が友 熱き心



★ 小口 太郎(1897年-1924年)

明治30年、諏訪郡湊村花岡（現岡谷市花岡区）に生まれる。第三高等学校（京都大学の前身の一つ）に進学し、水上部（ボート部）に入部。琵琶湖周航の行事の際に仲間とともに作った歌が広まり、今日まで「琵琶湖周航の歌」として歌い継がれている。

その後、東京帝国大学（現東京大学）理学部物理学科に進学し、在学中の発明で特許を取得。同大学の航空研究所で研究を続けたが、大正13年、26歳の若さで逝去。

関連の動き

◆昭和62（1987）年

1月に第1回小口太郎顕彰碑建立準備会
4月に小口太郎顕彰碑等建立実行委員会設立

◆昭和63（1988）年

10月に小口太郎顕彰碑等除幕式
同月末に小口太郎顕彰碑等保存会発足

◆平成5（1993）年

小口太郎顕彰碑等建立5周年記念の集い・井狩甫氏（三高OB）檄文朗読

◆平成10（1998）年

小口太郎顕彰碑等建立10周年記念の集い

◆平成15（2003）年

小口太郎顕彰碑等建立15周年記念の集い・飯田忠義氏（元NHKアナウンサー）講演会

◆平成20（2008）年

小口太郎顕彰碑等建立20周年記念の集い・旗野博氏（原曲作者・吉田千秋の判明に寄与）講演会

◆平成29（2017）年

6月に滋賀県高島市で琵琶湖周航の歌100周年記念行事
11月に京都大学で琵琶湖周航の歌百周年記念碑除幕式
※小口太郎顕彰碑等保存会が両行事に参加

◆平成30（2018）年

小口太郎生誕120周年
琵琶湖周航の歌100周年
小口太郎顕彰碑等建立30周年

小口太郎と岡谷



右：昭和63年 小口太郎顕彰碑等除幕式の様子
左：平成29年 滋賀県高島市今津町にて行われた「琵琶湖周航の歌」誕生100周年記念行事に参加

湖畔公園には小口太郎顕彰碑、銅像、歌碑があります。ボタンを押すと曲が流れるミュージックボックスもあるんですよ。今年は顕彰碑等建立30周年です。



小口太郎顕彰碑等保存会 会長
小口 久一さん

顕彰碑等建立・保存会発足の経緯は？

昭和50年代から小口太郎を顕彰しようという話があったようです。同60年代初めに具体的話が進み、実行委員会が発足。顕彰碑等の建立が決定して全国から寄付が集まりました。昭和63年、除幕式の後、実行委員会は保存会に移行。保存会では顕彰碑等の保存・清掃、関連地区との交流とともに、「琵琶湖周航の歌」を広くみなさんに知っていただく活動をしています。毎日夕方に「愛の鐘」で曲が流れるのがとても

うれしいですね。

小口太郎の魅力は？

「琵琶湖周航の歌」を口ずさむと本当に心が和みます。歌詞をみると、小さいころから家の前に広がっていた諏訪湖を頭に浮かべて作ったんだなあとつくづく思います。当時の東京帝大で学び、まさに「ものづくりおかや」のスタートにいたような人ですよ。

今後の展望は？

今年子どもたちに小口太郎について知ってもらうため、市内小学校にDVDやしおりを寄贈します。また、長野滋賀県人会のみなさんには花岡区の「森林の里親」になっていただいていますし、新潟市の「ちあきの会」からは会報などを送っていただいています。当会としても周年行事だけでなく、何か考えなくてはいけないかなと思っています。

諏訪湖とともに生きる

当時、諏訪湖は今よりも広く、夏は水泳、冬はスケートをするのができました。太郎の尋常小学校6年時の作文にも「さて僕は、春は弟や妹たちと舟にのつて、湖水に遊び…（一部引用※）」とあり、子どものころから湖に親しんでいたことがうかがわれます。

当時の若者とボート

明治34年、諏訪中学校（現諏訪清陵高校）に端艇部ができます。同中学で太郎の15年ほど先輩にあたる岩波茂雄は、二高（東京大学の前身の一つ）でボートに熱中。当時ボートは、旧制中学・高校などの若者に人気のスポーツの一つでした。ちなみに太郎は、諏訪中学ではスケート部や弁論部に入っていました。

ボートとの関わり

三高でボートに熱中

太郎は、大正5年、三高（京都大学の前身の一つ）の二部（工・理・農学部）に進学。水上部（ボート部）に入って精力的に活動しました。琵琶湖が故郷・諏訪湖を思わせたから、ともいわれています。当時三高では、水上部だけでなく三高生だれもが参加できる行事として、琵琶湖周航が行われていました。三保ヶ崎を出発して今津、竹生島、長命寺などを巡りながら、3泊4日ほどで琵琶湖を一周。楽しいながらも、水上部員にとつては厳しい訓練の面もあったようです。



三高時代、二部クルーのメンバーと後列の向かって右端が小口太郎

※「小口太郎六年生の作文」
湊小学校 編（平成2年）より

現代は女子部員も大活躍！
岡谷南高校漕艇部のみなさん



《琵琶湖周航の図》

①～⑥は
歌詞の一番～六番と関連があります



「琵琶湖周航」で歌がうまれた

「琵琶湖周航の歌」の誕生

大正6年6月27日、小口

太郎は三高・二部の水上部員クルーの一員として琵琶湖周航に出発。2日目の今津の宿で、クルーの一人が「小口がこんな歌をつくった」と歌詞を見せ、それを気に入った彼らは、当時流行していた「ひつじぐさ」という曲にあわせて歌いました。太郎を含む何人かで歌詞を修正・追加した後、この歌

は三高の寮歌となり、学外にも広がっていったのです。

歌い継がれて

当時、旧制高校の学生たちは多くの寮歌をつくりましたが、この歌のように今日まで愛されているものは稀少です。また、平成5年には「ひつじぐさ」の作曲者が新潟県出身の吉田千秋と判明。彼も小口太郎と同じく惜しくも早逝しました。

太郎さんの外套

小口太郎顕彰碑等保存会の元会員で、小口太郎の遠縁にあたる濱有さんにお話を聞きました。

「子どものころ、お墓参りのときは最後に太郎さんのお墓に行っていました。高校のとき、冬にダブルの軍隊式外套を着ていたんですが、後で太郎さんの形見だと知りました。ちよつと格好いい外套でしたよ」「太郎さんは多才で、何でもうまくこなした人だと感じます。若くして亡くなったのは残念で、もっといろいろな面で活躍できたのに、と思います」

知られざる一面

多才でユーク

小口太郎は、多才で勉強・スポーツもよくできました。友人たちは、普段は物静かだが独特のユーモアがあった、とも語っています。大学のころには、アインシュタインが来日すると聞いて、正式に議論を戦わせたいと昼夜逆転して研究に没頭したそうです。航空研究所時代は、月に3回も引越したり、「部屋を掃除するくらいなら寝ている」と笑っていたといい、独特の人物像が垣間見えます。

科学者・小口太郎

東京帝大在学中の発明「有線及び無線多重電信電話法」は、5か国(後に8か国)で特許を取得。将来を期待されていましたが、26歳で早逝しました。航空研究所で彼を指導した、夏目漱石門下の著名な物理学者・寺田寅彦も、その早すぎる死を悼みました。



諏訪中学時代の水彩画



航空研究所に勤務していたころ

子どもたちに伝えたい 小口太郎さんのこと



右：昭和63年 除幕式でリコーダー演奏を披露する湊小の6年生(当時)
左：校内の小口太郎コーナー。写真やゆかりの品を実際に見ることで、より理解を深められる



湊小学校校長
北原 克己さん

湊小学校は小口太郎の出身校ですが、どのような活動をしていますか？

校内には小口太郎さんを紹介するコーナー、小学校時代の作文原本や水彩画などの展示があります。PTA主催の先生たちの歓迎会では、「琵琶湖周航の歌」を「第二校歌」として歌います。また、6年生が音楽会で「琵琶湖周航の歌」のリコーダー演奏をするのも伝統になっています。

子どもたちに学んでほしいことは？

地域のみなさんが小口太郎さんのことをとても大切にしているので、その思いを引き継いでいってほしいですね。郷土の偉人を大切にして、郷土を愛する気持ちにつながってほしいと思います。

ぜひ、ご参加ください

小口太郎生誕120周年・琵琶湖周航の歌100周年・
顕彰碑等建立30周年 記念の集い



第1部 10月7日(日)

市民のみなさんの参加・聴講、大歓迎！

●碑前祭

時間：午後1時30分～2時30分
場所：岡谷湖畔公園 小口太郎像前
●式典 ●合唱(参加者)

参加無料

事前申込み不要

●記念講話「名曲 琵琶湖周航の歌」

講師：琵琶湖周航の歌資料館 村井佳子館長
時間：午後2時45分～3時30分
場所：下浜区民センター
●「琵琶湖周航の歌」器楽演奏(湊小学校)と、江崎玲於奈氏揮ごうの歌碑原本の公開展示もあります。

※雨天時は碑前祭も下浜区民センターで開催

第2部 11月17日(土)

ぜひご来場ください。いっしょに歌いましょう！

●地域音楽団体などによる演奏会

時間：午後2時～ 場所：カノラホール
出演…湊小学校
岡谷南部中学校ブラスバンド部
諏訪清陵高等学校合唱部
カノラ少年少女合唱団 ほか

参加無料

事前申込み不要

江崎玲於奈氏揮ごうの歌碑原本を額装し、岡谷美術考古館で展示します

期間：10月18日(木)～11月4日(日)
この機会に、ぜひご覧ください。

江崎玲於奈氏：物理学者。昭和48年、ノーベル物理学賞受賞。三高、東京帝国大学理学部物理学科で小口太郎の後輩にあたる。



おもな参考文献・参考サイト

『小口太郎と「琵琶湖周航の歌」』安田保雄(昭和52年)／『琵琶湖周航の歌 小口太郎と吉田千秋の青春』飯田忠義(平成19年)／『小口太郎一生誕90周年記念誌-』小口太郎顕彰碑等建立実行委員会(昭和63年)／『写真でつづる清陵の百年』長野県諏訪清陵高等学校同窓会 写真でつづる清陵の百年編集委員会(平成8年)／『銀河グラフィティ 信州人物風土記・近代を拓く 岩波茂雄』株式会社銀河書房(昭和61年) ★印の写真は「小口太郎顕彰碑等建立20周年記念の集い 葉」、「小口太郎一生誕90周年記念誌-」より転載 滋賀県ホームページ・高島市ホームページ

問合せ ● 商業観光課(内線1454)